

元來我國海軍に大關係を有するにあらざれば、茲に之を省畧す

英佛露の軍艦の比較

クラウツセー伯の公にする處の海軍年報、第九(千八百九十五年)には面
 白き、調査多く統中英國の海軍力を其對手たるべき、諸國と對照し及火
 戰時に際し、増進し得る艦數の實狀を比較せる一節は、頗る緊要なるを
 覽ゆ、地中海に事あるの日に於ける、英國の實力を危むべきものありと
 は、シブー下、クロース氏の流く處なれども、クラウツセー伯の調査に據
 れば實際、地中海艦隊と海峽艦隊とは、同一の働を爲すを得ざるを以て此
 要なきものゝ如し、今日艦隊に服務し若くは四十八時間内に此の海峽に
 入直に戰列に加はり得べき英佛軍艦を比較するに英は二十四艦を有し、
 一等甲艦巡洋艦七艦、二等巡洋艦五隻、其他水雷砲艦十五隻及水雷衝角あ
 り、佛國亦同數の準備あり、戰艦十隻、甲鉄砲艦二隻、二等巡洋艦
 二隻、三等巡洋艦十二隻、水雷砲艦八隻あり、英國は初より、戰艦に
 於て著しき優勢を有す、此に探求すべきは戰艦のみなり、更に進ん
 で、英國海軍の全力を以て佛露を聯合したるものに比すれば英は一千八

百九十九隻には、彼の三十八隻に對して、四十隻は戰艦を以て得
 べし、然れども露佛聯合海防艦十二隻に對しては、只四隻を出すを
 得るに過ぎず、甲鉄巡洋艦は英は十七隻を以て二十一隻に當らざるべ
 らず、但し一等非甲鉄巡洋艦は十三隻を以て四隻に當るを得べし、故に
 戰艦及水雷防艦には、五十隻を以て四十隻に當るべく、一等巡
 洋艦は之を以て二に當るよりは、更に優勢を有せり、詳言せば、六十隻
 を以て二十五隻に當るを得べし、二等巡洋艦中タルボ一形に属するも
 のは、實際第一等巡洋艦に等し今より十八ヶ月以内には、水雷破壊艦四
 十隻竣工すべく、去る月の後は、ジブロールタ形の巡洋艦八十隻三年半
 の後には、セリチユリド形の巡洋艦廿隻を得べし以上の諸艦は同時
 に成りせざるも或は一二年は二年にして成功すべきに由り若し戰爭今よ
 り、三年半の間繼續し現在の艦艦盡く破滅するも猶ほ戰艦二十隻一
 等巡洋艦八十隻水雷破壊艦四十隻を存すべし、此を以て英國現時の海軍
 は善く戰ふて而して其優勢を失はざるを得べし、然れども英國軍艦は四
 海に散布し、之に及り其の數國たるべきものは、容易に集中し得るを以

て今日有するもの及製造中のもの、外に更に、一等戰國職を有するに非
ずんば、安堵する能はず云々、ブラッセル伯は日清戦争論及して速力
、甲装及迅速射砲の重要なを説き、更に斷崖を下して、曰く今日日本
ルツロ時代を異なるなし、如何戰國器械に改良を加ふるも、士官兵士の
教育及訓練習にして疎ならん乎決して萬全奏功を望むこと能はず云々
あり

版權
所有

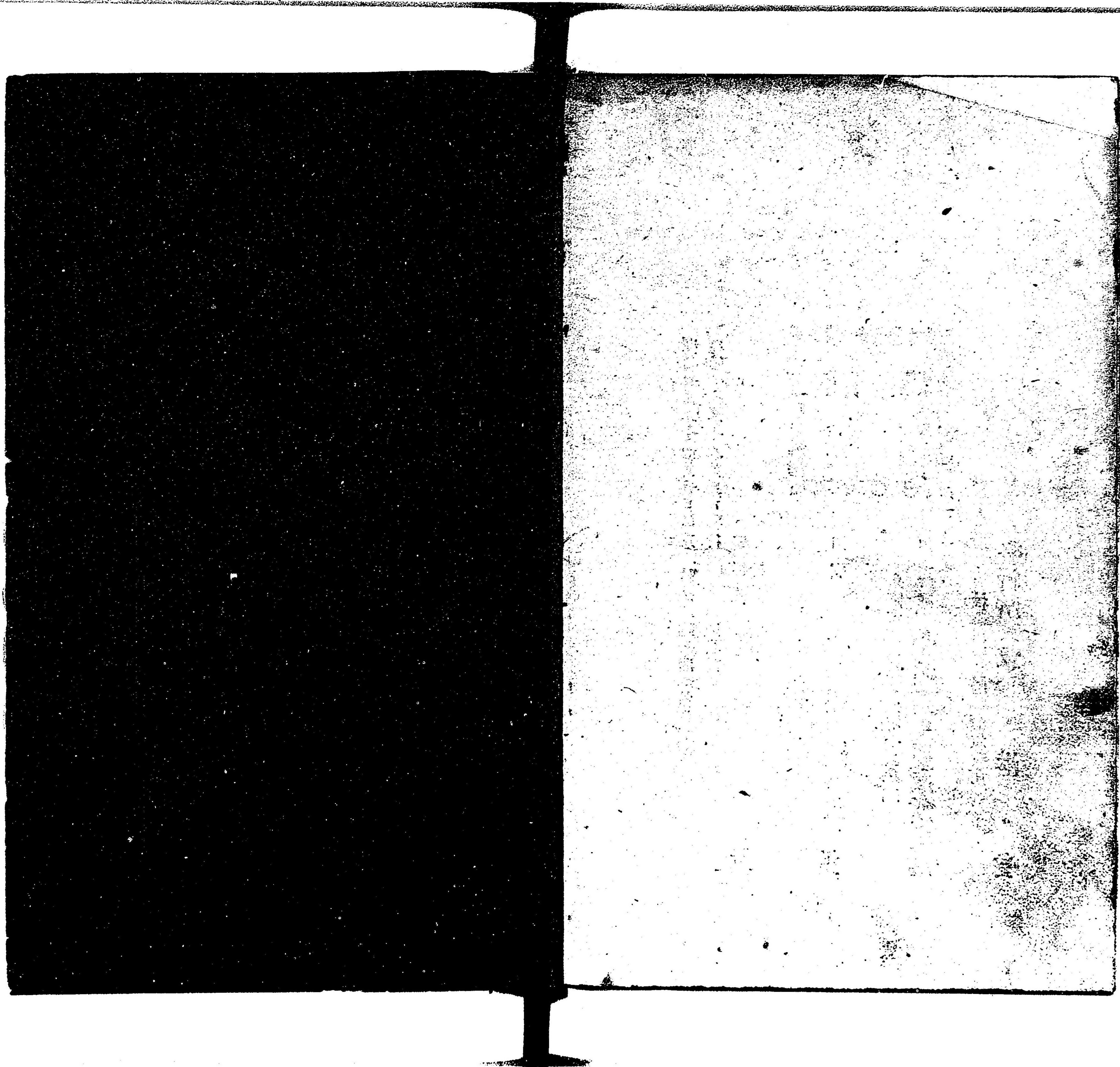
明治廿九年十一月廿日印刷 神奈川縣三浦郡横須賀町
明治廿九年十二月五日發行 遠見五百三十一番地

編輯者 股野三藏

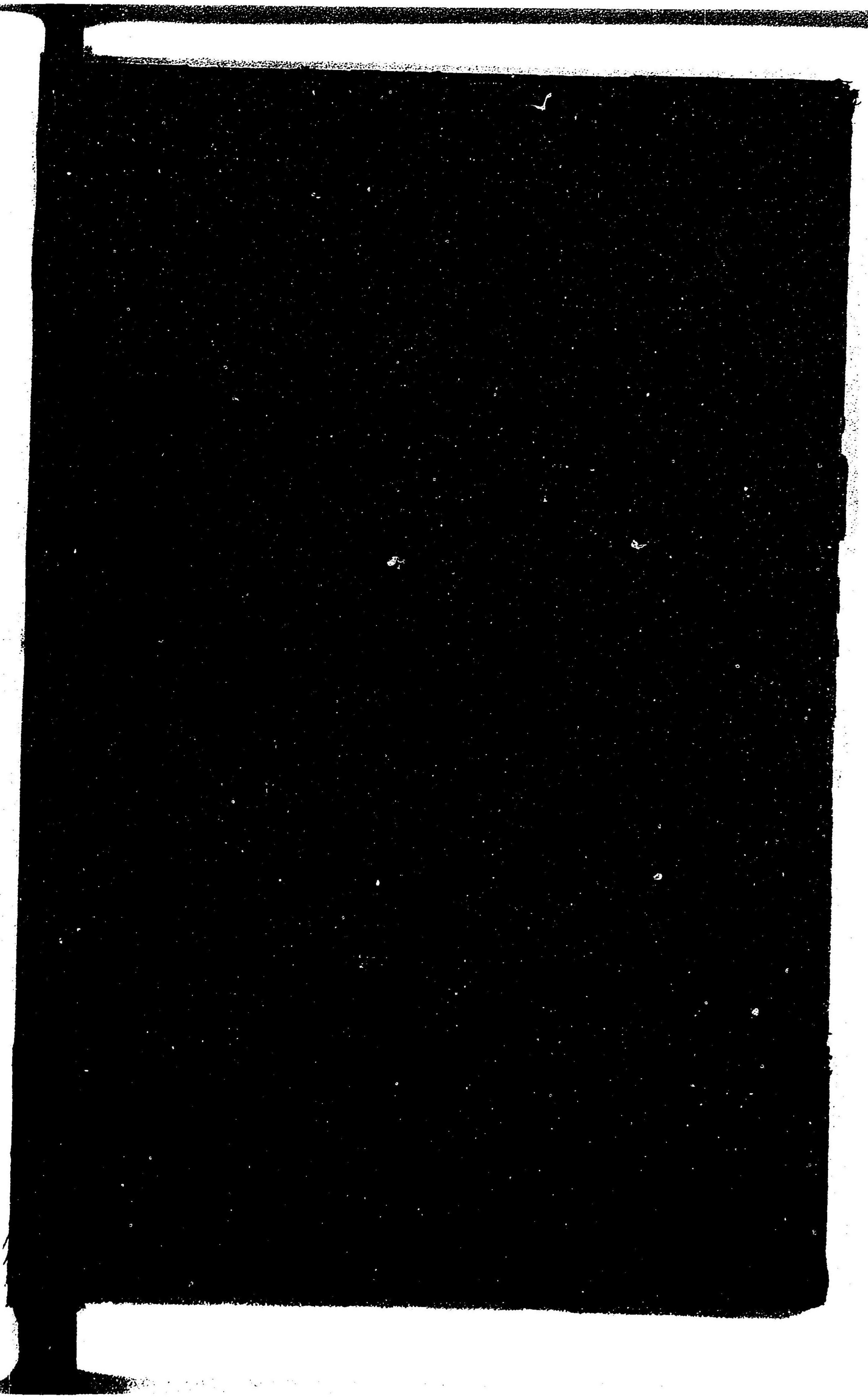
印刷者 吉川深三郎

東京市京橋區日吉町十三番地
印刷所 小川寫真製版所支店

發行所 軍港堂
神奈川縣三浦郡横須賀町



圖書印



68
482

052725-000-5

68-482

大日本軍艦一覽

軍港堂

M29

BFH-0212



